

ゴールを目指してドリブルで切り込む御船REX JSCの選手



御船REXがホームで躍動

吉無田高原サッカー大会

キッズ・ジュニアサッカー大会が7月2、3の両日、吉無田高原で開催されました。青少年の健全育成や同高原の観光推進を目的として、今回で6回目。県内から50チームが出場して、年中から小学校3年生までが8パートで対戦しました。大会初日は、小雨と霧がかかるあいにくのコンディション。しかし、選手たちは元気いっぱいに大自然のピッチを駆け回り、ゴールを目指していました。御船から唯一出場の「御船REX JSC」(永野英二監督)は、地元の声援を背に、年中&年長が1位、2年生が2位と大健闘しました。

米作りの楽しさを肌で体験

健軍東小が八勢で田植え体験

棚田景観地として知られる上野地区八勢で6月16日、熊本市の健軍東小学校5年生約70人が田植えを体験しました。ふるさと生活体験活動の一つで、今年で2回目。田植え初体験の児童が大半で、地元の牛嶋清一区长や田植え名人が直接指導。水田約11㍍を3班に分かれ、苗を縦横20㍍間隔に植えつけました。児童のなかには水田に足をとられ尻もちをつく場面も。農村集落ににぎやかな声が響いていました。田植え後は、八勢眼鏡橋や日向街道などの史跡も散策。秋には、かかし作りや稲刈りの交流も行われる予定です。



横一列に並んで苗を手植えする児童たち

夢と努力で可能性限りなく

蒲島知事が高木小で出前ゼミ

蒲島郁夫知事が県内の学校を訪問する「出前ゼミ」が6月15日、高木小学校(北森光代校長、102人)で開かれ、児童や保護者など約80人が熱心に耳を傾けました。県教育庁が主催して、夢を持ち続けることの大切さを伝えようと、今回で41回目。蒲島知事は、農協職員を経て、筑波大講師、東大教授、知事就任までの半生を講演。「120%努力すれば、次の舞台が用意される。自分たちの達成を次の舞台に生かしてほしい」と夢や努力の大切さを熱く話しました。児童代表6年の木村名伶さんは「将来の夢ができれば無理と決めつけしないで、勇気を出してチャレンジしていきたい」と挑戦する勇気を蒲島知事に誓いました。すると「夢が見つかりますように」と、蒲島知事愛用のくまモンバッジがプレゼントされました。



児童たちに夢の大切さを話す蒲島知事

ピンの間を慎重にハンドル操作する木倉小児童



自転車の安全運転マスター

御船地区子ども自転車大会

御船地区交通安全子ども自転車大会が6月18日、スポーツセンターで開かれました。この大会は、正しい交通知識や交通事故防止を目的として、御船地区交通安全協会が主催したもの。今回で45回目。地区4町の小学校から10校71人が参加して、学科や実技のテストを受講しました。実技では、自転車に乗って、障害物や横断歩道などの安全確認と合図動作を確認しました。御船小6年の吉永美和さん(辺田見)は「自転車の乗り方をほかの人にも教えて、交通安全を心がけたいです」と安全運転を誓っていました。

親子で楽しく地域で子育て

母親目線の子育て情報誌完成

つどいの広場ゆうゆうを利用する子育て中の母親で作る作成委員会(北永かおり代表、8人)が子育て情報誌「スマイルハッピー」を作成し、町内の子育て中の家庭や関係施設に配布しました。町福祉課や子育て談話室(柴田恒美代表)が支援して、町内の飲食店や関係施設などに直接足を運び、情報提供を得て完成したもの。写真やイラストをふんだんに取り入れ、見やすく利用しやすい母親目線での情報が満載。北永かおり代表は「大変でしたが町を知ることができて良かった。たくさんの人に利用してほしい」と話していました。



情報誌を作成した子育て中の母親たち

志高き郷土の先哲を偲ぶ

宮部鼎蔵顕彰供養祭

郷土の先哲「宮部鼎蔵」を偲ぶ供養祭が7月3日、上野地区の鼎春園で行われました。宮部兄弟顕彰会(川部寅男会長)が主催。鼎蔵は、同区茶屋本出身で、肥後勤王党の総帥。尊王攘夷を志し活動に奔走のさなか、元治元年(1864)6月5日に京都池田屋で会談中、近藤勇率いる新撰組の襲撃を受けて自刃した幕末の人物です。今年は、鼎蔵と親交の深かった吉田松陰の生誕地である山口県萩市から約40人が参加して、神事が執り行われました。川部寅男会長は、「宮部先生は上野地区の鏡となる先哲。今後、(顕彰会でも)萩市と共に親交を深めながら顕彰していきたい」と話していました。供養祭では、萩市からの参加を歓迎した古閑迫とら舞の披露や、郷土史家の奥田盛人さん(七滝)が鼎蔵と松陰のかかわりについて講演を行いました。



歓迎セレモニーで披露された「古閑迫とら舞」